

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	feel小久保Ⅱ			
○保護者評価実施期間	2024年11月11日		～	2024年11月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	79	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	2024年10月31日		～	2024年11月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 27日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の心身の健康状態や特性、発達状況等について理解しようと努めることで、お子様の変化に気付くことができたり、お子様の強みを活かした学習方法を提案できたりと、充実した支援に繋がっていると考えられる。	保育士や公認心理師、臨床心理士といった専門資格を有する職員が多く在籍しており、専門的な視点から行動観察を行ったり知能検査等を行ったりするなど、支援するに当たってお子様のことをよく理解できるよう心がけている。	今後も職員研修やメンター制度等を継続し、職員の資質向上に努めると共に、幅広い外部の研修を受講し、お子様を深く理解するための視点を養っていききたい。
2	保護者の方が相談しやすい体制を整備したり、些細なことでも職員に話しやすい関係作りを心がけたりすることで、保護者の方から「共感的に支援がされている」「子育てに関する助言等の支援がされている」といった評価をいただけた。	保護者の希望に応じて、定期的または必要に応じた頻度で面談ができる体制を整え、お子様や保護者ご自身に関する相談がしやすいよう人員を配置している。面談の際には、保護者の方の気持ちに寄り添いながら、すぐに試せる具体的な対策方法をご提案できるよう、専門の資格や専門の受験資格を有する職員が担当している。	個別の面談を希望されていない方にも気軽にアクセスしていただけるよう、YouTubeにて子育てのヒントになるような内容を配信している。今後も保護者のニーズに合うような配信を継続していく。
3	ペアレントトレーニングやYouTubeでのお子様との関わり方のヒントに繋がる動画配信に力を入れており、保護者が学べる機会を、多様な形式で提供できていること。	仕事の都合等でペアレントトレーニングや保護者交流会に参加できない方であっても、動画の視聴であれば時間を選ばずに見ることができ、繰り返し視聴できるというメリットもあると考え、動画の制作にも力を入れている。	ペアレントトレーニングや保護者交流会、動画配信で取り扱う内容について、希望や意見を取り入れながら、今後も継続していききたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「地域の他のお子様と交流する機会があるか」といった質問に「はい」と回答した方が、保護者の方は75.9%、職員は80.0%に留まっており、これまでより地域に開かれた事業所の運営が必要だと思われる。	新しい試みとして秋祭りを実施したが、地域のお子様のご参加がやや少なく、時間帯によっては交流の機会に恵まれなかったお子様がいらした。	今年度開催した秋祭りの振り返りやお子様や保護者様のご意見をもとに、より多くの方に参加していただいたり事業所の取り組みについて知っていただいたりできるよう、次回以降の開催方法のあり方を含め、交流の頻度や方法を検討する。
2	契約書類や運営規定、災害時の対応等について、契約時にお伝えすることが多く、内容が分かりにくかったり、時間が経つと忘れてしまったりする事項が出てくる可能性がある。	必要な事項について契約時に書面を提示しながらお伝えしているが、内容が多く、長期に渡ってご利用いただいている保護者の方にとっては、記憶が薄れてきている事項もあると考えられる。	契約時の説明について、より一層丁寧で分かりやすくなるよう心がける。災害時の避難場所といった重要な事項について、ホームページ等で配信している避難訓練の活動報告と併せてお知らせしたり、定期的にご案内を配信したりして、再度周知を徹底する。また6ヶ月に1回作成している支援計画の中にも記載しているので、しっかりと伝えることを徹底する。
3	2021年の開所時からご利用されているお子様が多く、年齢の幅も広がってきたため、これまで取り組んだことのない活動プログラムや、小学校低学年～中学生・高校生のお子様を楽しめるよう難易度の調整ができるプログラムを増やす必要がある。	長くご利用いただいているお子様が多く、職員の適正に応じて各チームごとにプログラムを立案する方法が定着しており、事業所での活動について見通しがつきやすくなった反面、普段の小集団療育のプログラムや長期休暇時のイベントに目新しさを感じにくくなっているお子様がいらっしゃるかもしれない。	お子様のやってみたいことを尋ねる機会を増やしたり、所属チーム外に所属する職員にもプログラムのアイデアを募るなどして、プログラムの幅を広げていきたい。また、活動の参考となる外部研修の受講も積極的に動めていく。